

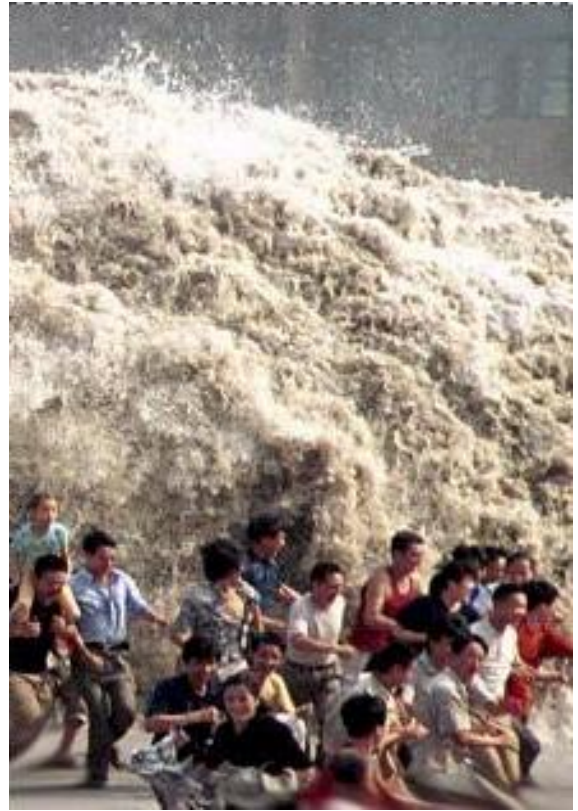


アンカー

34号

# Anchor

2005年2月



「海と大波のとどろき」

小さな光と大きな光 第2部

礼拝と音楽

暗黒の勢力を打破する

# 時兆





# 海と大波のとどろき

## スマトラ沖大地震、インド洋津波の ラオデキヤへの警告

「そして、地上では、諸国民が悩み、海と大波のとどろきにおじ惑い、人々は世界に起ろうとする事を思い、恐怖と不安で気絶するであろう。」(ルカ 21:25、26)

### 史上最悪の津波災害

インドネシア保健省は1月23日、スマトラ沖地震と津波による同国の死者数が17万3981人になったと発表した。あるところは**34mの高さ**の巨大津波であった。ロイター通信によると、これにより被災各国の死者総数は約23万4000人に達した。

そして日が経つごとに、その犠牲者、死者の数は増えていく。

今回の地震で、地球の自転周期がわずかだが永久的に短縮され、地軸が揺れ動いた可能性があるとの見方が米航空宇宙局(NASA)から出されている。北極の地軸が約2.5センチ東へずれ、また1日の長さが100万分の3秒短くなったとか....。「天体が揺り動かされる」と預言された時が近づいている。

この度の大惨事から多くの教訓をそれぞれ得ていると思う。

次に私なりに考えさせられたことを述べてみたい。

### 1. ノアの洪水の威力

ノアの洪水は水が全世界を覆い、地球の軸を変えたほどの驚異的なものであった。その爪あとには世界各地にいまだに残され、証している。それによって地球に四季が生じた。この度の地震、津波の脅威はノアの洪水の威力を知る助けになった。

この地震はNEIC(国際地震インフォメーションセンター)に記録された地震としては観測史上4番目の巨大地震といわれている。破壊された断層面積量などから推定しエネルギーの大きさはM9.0で阪神大震災(M6.9)の約1,600倍と見られている。英語の資料によると津波は広島に落とされた原爆の少なくとも「23,000倍」の



強さのものであったという。

全世界を襲ったノアの洪水はどれほどのものだっただろう。

## 2. 引き潮のこわさ

インドネシアのスマトラ沖大地震で震源からわずか 60 km に位置する同国シムル島では、住民約 6 万 5 千人のうち津波による死者は 6 人とどまっていた。1907 年に大津波を体験し、「海水が引いたら高台に逃げろ」という教訓が伝統的な教えとして住民の間に語り継がれていたらしい。島民の一人は地元メディアに対し、「海水が引いたら次には必ず大きな波が来る、という教えが昔からある。これをわれわれは『スモン』と呼んでいる」と話していたそうだ。住民らはこの言い伝えに従い、水が引いた時、すぐに丘へ避難した。

一方、シムル島の東南に位置し、震源から 140 km 離れたニアス島の住民の多くは、海水が引いた時、海岸に残った魚を捕ることに夢中になり、227 人が死亡した。

イエスは、エルサレム陥落の前兆について「荒らす憎むべき者が聖なる場所に立つのを見たならば、山へ逃げよ」と言っておられた。西暦 66 年秋にエルサレムはローマ軍によって包囲された。それはキリストチャンにとってのシグナルとなったが、町が軍隊に包囲されているというのに、どうして外に逃げられるだろうか。その時思わぬ事態が起きる。シリアの総督ケスティスは「まったく何の理由もなく」軍を撤退させた。ケスティスの退却を見たゼロテ党(熱心党)は門を開けて、ローマ軍のあとを追った。

インド洋の島々の海岸から潮が引いた時なんと多くの大人や子供たちが面白がって、魚を捕って楽しんだことであろう。引いていた波が猛獣の如く不意に猛襲してくることは考えてもいなかった。

わが教会も似たところがないとは言えない。ローマは「一撃を食らわす」時をうかがい、優しさをよそおって引き下がっているのである(大争闘下 341)。しかし、ラオデキヤ教会が、今日のローマ・カトリックは変わったのだ、信教の自由を説いている、過去の悪を謝罪しているではないか等、愛と一致と人権と平和を唱えるローマに限りなく近づいていく姿は非常に危険である。「平和だ、無事だ、安心せよ」と、インド洋の観光客のように安逸を楽しんでいるのではないだろうか。

ゼロテ党が門を開け、退却するローマ軍を追撃し始めた時に、キリストチャンに絶好の時が訪れた。イエスの預言に従い、一斉に市外に脱出したのである。ヨルダン溪谷を抜け、ユダヤと隔絶されているペラに逃れた。エルサレムが陥落したときに、キリスト教徒は一人も殺されずに済んだ。彼らは前兆に気を配り、イエスの指示に従ったのである。

イエスはまた、町からの脱出は急を要する、とも予告していた。

「屋上にいる者は、家からものを取り出そうとして下におりるな。畑にいる者は、上着を取りにあとへもどるな。」マタイ 24:17, 18

ローマ軍は、すぐに戻ってきた。この一瞬の空白が、キリスト教徒が逃れる最後の機会であった。ローマ軍が次々に町を襲っている間に、民衆はエルサレムに逃れてきて、その数は急速に膨れ上がり、さらに数千人が加わった。熱心党が戻るや門は閉ざされ、次の包囲への備えが始まった。このときには、逃げられる者は一人もいなかった。

### ローマの将軍ティトゥスの再攻撃 紀元 70 年

ティトゥスがふたたび包囲したとき、エルサレムに起こった災難は実に悲惨なものであった。幾百万のユダヤ人が滅びた。

「110 万人が命をたった。一つの町の陥落で、これほどの数の人々が命を奪われたことは、かつてない。ヒロシマでさえ、死者の数はこの五分の一だったのである。ヨセフスは、こう結んでいる。『世界が始まって以来、これほどの悲劇を被った町は他にない。これほどの邪悪が実を結んだ世代は他にない。』」ジョナサン・グレイ著「契約の箱」158

エルサレムの惨状については大争闘上第 1 章、契約の箱第 5 章に詳しく書いてある。

「エルサレムの滅亡は、世界を襲う最後の滅亡の象徴である。エルサレムの破滅によって部分的成就を見た預言は、もっと直接的には、最後の時代に適用されるべきものである。」祝福の山 151

### 3. 警告のしるし「サインズ・オブ・ザ・タイムズ」「時兆」!

#### サタン猛威を振るう

「サタンは人々に対し、あらゆる病気をいやすことのできる偉大な医師のようにみせかけながら、他方では病気や災害を生じさせ、ついに人口の多い都市が破滅して荒廃する。彼は今も活動している。海や陸における事故や災害、大火災、激しい突風、すさまじい降雷、あらし、洪水、たつまき、津波、地震など、あらゆる場所に幾多の形でサタンは力をふるっている。彼は取り入れまぎわの収穫を全滅させ、ききんと困窮を引き起こす。彼は空気を恐るべき病毒で汚染させ、幾千人もの方が悪疫で死ぬ。これらのできごとはますますひんぱんになり、悲惨なものになる。破滅は人間にも、動物にもおよぶ。

『地は悲しみ、衰え、……天も地と共にしおれはてる。地はその住む民の下に汚された。これは彼らが律法にそむき、定めを犯し、とこしえの契約を破ったからだ。』大争闘下 352

悩みの時に向かってますます頻繁に起こる災害は、どんな事の前兆だろうか。それは、これらの災害の原因は安息日遵守者たちのせいだとされ、世の注目が一気にセブンスデー・アドベンチストに向けられる時が迫っていることの前触れである。そして日曜遵守の強要へと突き進むので

ある。

「しかもこの大欺瞞者サタンは、神に仕える者たちがこれらの災害を引き起こしているのだと、人々に説く。天の神の不興を引き起こしてきた人たちは、すべての災いを、神の戒めに服従することによって絶えず違反者たちへの譴責となっている人たちのせいにする。日曜安息日を犯すことは神を怒らせることであり、この罪が災害をもたらすのであって、それは日曜日遵守がきびしく実施されねばやまない、と宣言される。」大争闘下 353

「こうした驚くべき現象は、キリストの再臨と世界の終末の直前には、もっとひんぱんに激しくなり、滅亡がすみやかに近づいているしるしとなる。」あけぼの上 109, 110

「海陸の災害、社会の不安状態、戦争の警報などが危機をはらんでいる。それらは最大規模の事件が近づいている事の予告である。…間もなくこの世界に大変化が起ころうとしているが、最後の運動は急速なものとなる。」同 70

今日、世界はテロ撲滅のために心を一つにしている。その矛先は近い将来、第七日目安息日再臨信徒に向けられることが確かであるとするなら、どれほど速やかに備えをしなければならないことかと思わせられるこのごろである。



金城重博

## 小さな光と大きな光—第Ⅱ部

ローレンス・ネルソン(元世界総会青年部長)2001年1月1日のテープより

#### 序論:

第1部で、しばしば文脈から外され、誤解され、誤用される二つの証の書の引用文について言及した。最初の一つは、レビュー・アンド・ヘラルド 1903年6月20日号に掲載された。次のように書かれている:

「聖書にあまりにも注意が向けられていない。主は男女をより大きな光に導くために、小さな光を与えられた。」

第1部で、エレ 大きな光 ン・ホワイト



小さな光



が明確に次の二つの用語を定義している参照文を幾つか読んだ。すべての預言者（聖書の預言者とエレン・ホワイトを含む）は「小さな光」であり、唯一の「大きな光」であるキリストへと我々を導くものであることを、彼女は明らかにしている。月が太陽の光を反射するように、自らの内に光を持たない預言者も、義の太陽であられるキリストからの光を反映することしかできない（預言の霊、第2巻、83, 84 参照）。

次に、もう一つの引用文について考察しよう。それは、「国と指導者」下巻、227 頁に見られる：

「講壇からは、聖書、そして聖書のみ言葉が語られなければならない」。

最後の危機が近づくにつれ、サタンは、証の書を神の残りの民からますます遠ざけようと躍起になっている。この一節を文脈内で吟味すると、ここでホワイト夫人が述べているのはセブンスデー・アドベンチスト教会の講壇のことではなく、SDA の牧師や働き人たちが、世の自称キリスト者たちの前に立つべき時のことであることがはっきりしてくる。「国と指導者」下巻の 224—228 頁あたりまで、ご自分で読まれると良い。そうすれば、どの講壇について述べられているのかが明白になるはずである。

同書の 226, 227 頁からしばらく引用することにする：

「人間の律法と主の戒めの間、真理と誤りの間の大争闘、最後の戦いが行われる。今われわれはこの戦い、すなわち至上権を争う教会間の争いではなくて、聖書の宗教と作り話や伝統的宗教との間の戦いに入っている。・・・キリスト教の柱石そのものである教理を拒否する者が多くいる。靈感を受けた筆者が記した創造、人類の墮落、贖罪、律法の永遠性などの偉大な事実はみな、自称キリスト教界の大半の人々が、否定したも同然の有様である。・・・

キリスト者は、やがて世界に、圧倒的驚きとして起ころうとしている事件の、準備をしなければならない。そして彼らは、神の言葉を忠実に研究して、その教えに生活を調和させようと努力することによって、この準備をしなければならない。・・・神はリバイバルと改革を求めておられる。講壇からは、聖書、そして聖書のみ

の言葉が語られなければならない。しかし聖書の力は奪い去られているので、その結果は霊的生活の低下となってあらわれている。今日の多くの説教は、良心を覚醒させて魂に生命を与える、神の力に欠けている。・・・彼らの心に神の言葉を語ろう。これまでただ伝説と人間の説と、格言だけを聞いていた人々に、魂を新たに、永遠の生命に至らせることができるおかたの声を聞かせよう」。

「キリスト教の柱石そのものである教理を拒否する者が多くいる」との言葉は、SDA 教会について語られたものだろうか。どの柱石のことか、ホワイト夫人は続けて述べている：

「靈感を受けた筆者が記した創造、人間の墮落、贖罪、律法の永遠性などの偉大な事実はみな、自称キリスト教界の大半の人々が、否定したも同然の有様である。」

これは、セブンスデー・アドベンチスト教会のことを述べているはずがない。なぜなら、真の SDA 信者は、「靈感を受けた筆者が記した創造、人間の墮落、贖罪、律法の永遠性」をみな信じるからである。「神はリバイバルと改革を求めておられる」。この事を成し遂げるには、自称キリスト教徒らに教えるとき、「聖書、そして聖書のみ言葉が語られなければならない」と言っているのである。エレン・ホワイトが「我々の講壇」と言わずに、ただ「講壇」と言っているところに注意されたい。

ある大きな教会の牧師たちが、神の民を証の書から遠ざけるためにこの短い文を誤用したのは、実に悲しむべきことである。私は引退後しばらく、南カリフォルニアのある大きな教会の長老であった。1, 200 名もの信者を有するこの教会で、牧師が長老たちに、説教に決して証の書を用いないように指示したのである。

### 伝道と証の書の使用

確かに、自称キリスト者〔クリスチャン〕や未信者からなる聴衆の前で、エレン・ホワイトを引用するのは適切ではない。これについては、ホワイト夫人自身が、「教会への証」第5巻、669 頁で勧告している：



「ある者たちが、賢明でない手順を踏んでいると私は述べた：未信者らに自分たちの信仰について語り、その証明を求められたとき、彼らは聖書から証明しようとしなくて、私の書き物を読んで聞かせたのである。この手順は無節操で、未信者らに真理に対する偏見を起こさせるものであることが私に示された。証の書は、その靈感について何も知らない人たちにとって、何の重みも持つことができない。このような場合、証の書を用いるべきではない」。

それで、私は牧師として、未信者に聖書研究を施すときや、伝道講演会などで語る時は、すべての主張をいつでも聖書から証明してきた。「セレクトッド・メッセージ」第3巻、29頁を引用する：

「一般民衆に働きかけるときは、あなたの立場を支持するのに、ホワイト姉妹の書き物を、顕著な権威あるもののように引用してはいけません。このような事をして、証の書に対する信頼を増すことにはなりません。あなたの証拠を、神の言葉から明瞭な形で持ってきなさい。『主はこう言われる』こそが、人々に提示し得る最強の証なのです」。

世の自称キリスト者らの前で語る時、単に彼らを楽しませるために、一般の物語や逸話、あるいは世の報道雑誌からのグッド・ニュースなどを説教の題材にすべきでないことについても触れておこう。エレン・ホワイトは次のように言明している：

「これまで、伝説と人間の説と戒めばかりを聞いてきた人々に、心を新たにして、永遠の命にいたらせる神の声〔聖書、そして聖書のみ言葉〕を聞かせよう」実物教訓 17

一般大衆の集まりにおいてエレン・ホワイトの書き物を用いるのは、適切でないと結論づけることができると思う。つまり伝道講演会や、誰かに聖書研究を施すとき、未信者や他教派の人と議論を交わすときなどにおいてである。

### 証の書を用いるべき時

これまで証の書を用いるべきでない場合について述べてきたが、では、いつ用いるのが適切

か？という質問の答えを見つけていきたいと思う。証の書を開けば、主はエレン・ホワイトに、証の書が読まれるべきであると指示なさっている場合が多くあることを認めるであろう。我々の講壇から、つまり我々の教会内だけでなく、キャンプ・ミーティングにおいても読まれるべきであると。

実例を幾つか挙げてみよう。イリノイ州でのキャンプ・ミーティングについて、「バトル・クリークからの手紙」49頁（セレクトッド・メッセージ 20頁）を引用する：

「私がコロラドへ行った時、あなた方が心配になって、体が弱っている中でキャンプ・ミーティングの時に読んでもらうように何ページも書きました（1881年9月）。力もなく、震えながら、午前三時に起きて書いたのです。神は土の器を通して語られました・・・」。

ところが、その手紙のことは完全に忘れられてしまった。キャンプ・ミーティングが終わり、次の世界総会までそれが読まれることはなかった。

エレン・ホワイトの伝記の中で、著者のアーサー・ホワイト氏は、彼女からこの証が届いたのはキャンプ・ミーティングの真っ最中のことであり、指導者たちが夫人の要請どおりに読むのを忘れたことについて、弁解の余地はなかったと述べている。

SDAの指導者たちが、神の霊の証を我々の講壇から読むことをできるだけ避けようとするのは、我々の時代に限ったことではなかったのである。エレン・ホワイト自身も、同様の問題に直面した。この証が当時のキャンプ・ミーティングで読まれることは、極めて急を要することであると彼女が感じていたことに、留意していただきたい。病気があったにもかかわらず、夜中の三時に起きてそれを書いたほどである。しかし、何ということか、キャンプ・ミーティングでは読まれなかったのである。「原稿8」の250と296頁に、オーストラリアのアボンデール・キャンプ・ミーティングで読んでもらうために、彼女が2巻ものぶ厚い原稿を送ったことが記されている。当時は良くある出来事であったのである。

キャンプ・ミーティングに証を送ることの他に、主はホワイト夫人に、教会にも会衆に読まれるた

めの証を送るよう指示なさっている。彼女がミシガン州バトル・クリークに送った二つの証は、「教会への証」第5巻、45-84頁に保管されている。これらの証を送るよう主が彼女に指示なさったにもかかわらず、またも彼女はある問題に直面した。彼女の要請は数週間おざりにされた。「教会への証」第5巻、62頁から引用する：

「バトル・クリークの兄弟姉妹方：

教会で読んでもらうようにとの要請と共に、私が〇〇兄弟に宛てて送った手紙は、兄弟がそれを受け取った後も、数週間あなた方に読まれることはなかったと理解しています。あの証を送る前、神の霊による印象を非常に強く受けたため、それをあなた方に書くまで、私の心は昼も夜も休まることはなかったのです。

またも彼女は、この証が教会に持ち込まれることは極めて急を要すると感じたので、昼も夜も心が休まらなかったのである。しかし、何ということか！急を要すると彼女が感じたにもかかわらず、最初の証は何週間も読まれることはなかった。

「教会への証」第5巻、61頁に、次のような勧告が載せられている。ここで彼女は、教会内のある問題を指摘している：

「多くの若い牧師たちと、幾人かの熟練した牧師たちは、神の言葉をなおざりにし、御霊の証をも軽視しています（それは今日も確かに見られる）。証に書かれていることを彼らは知っておらず、知ろうともしません。自分たちの品性の欠陥を悟り、正そうと望まないのです」。

ホワイト夫人は、次の証をバトル・クリークに送った。それは様々な勧告を含んでおり、教会で読まれることを意図したものであった。主要な重荷は、教会員に悔い改めを呼びかけることであった。彼らは霊的に死んだ状態にあり、自我を十字架につけ、悔い改めて改心する必要があると訴えている。教会は腐敗していると。彼らに直接語りかけるように、彼女は次のように続けている：

「『あなたの不義が、あなたがたと、あなたがたの神との間を隔て』たので、あなた方は、すべての絡みつく罪をかなぐり捨てなくてははいけません」。

それから、こう警告している：

「もしも今の霊的状态が続くなら、あなた方の前途にあるのは悪い事ばかりであるとしか言いがありません」。

エレン・ホワイトからのこれらの証が、我々の疑問に答えてくれる。「我々の講壇で証の書を用いるのは妥当だろうか？」罪を譴責し、その他様々な警告や勧告を与えてくれる預言の御霊の証が、彼女の時代に我々の教会の講壇から読まれることを主が要請なさったとしたら、我々の時代にそれが講壇で読まれることも、同様に妥当ではないだろうか。我々の教会やキャンプ・ミーティングで主からの勧告が読まれるのが、妥当でないということがあるだろうか。ましてや今日においては、1880年代におけるよりも、はるかにその事が必要とされているのではないだろうか。

ここで、我々の教会において聖書と証の書を併用することは、妥当であると結論づけるものである。すなわち：

- ・安息日学校において
- ・安息日礼拝において
- ・祈祷会において

証の書が読まれるのは、ふさわしいことなのである。

真理が追加されているわけではないが、神は証の書を通して、既に与えられている大真理をより分かりやすく提示なさった。そして、誰一人弁解の余地を残さないように、民を目覚めさせ、心に深く刻み付けるために、主はこのような方法をお選びになったのである。

であるから、誰一人恐れることなく、教会の講壇から証の書を読み上げようではないか。神よりも上手に勧告を与えられる人はいないのだから。

### 神からの証の拒絶

さてここで、現代のイスラエルから古代イスラエルに目を転じてみよう。但し、この実例を効果的にするために、エレミヤを古代の預言者とは見なさずに、現代の生きた預言者で見なすことにしたい。実際に彼は、エレミヤ書 36：1-8、18-23 に生々しく描写されている時代の預言者として活躍した：

「ユダの王ヨシヤの子エホヤキムの四年に主か

らこの言葉がエレミヤに臨んだ、『あなたは巻物を取り、わたしがあなたに語った日、すなわちヨシヤの日から今日に至るまで、イスラエルとユダと万国に関してあなたに語ったすべての言葉を、それにしるしなさい。ユダの家がわたしの下そうとしているすべての災いを聞いて、おのおのその悪い道を離れて帰ることもあろう。そうすれば、わたしはそのとがとその罪をゆるすかも知れない』。

そこでエレミヤはネリヤの子バルクを呼んだ。バルクはエレミヤの口述にしたがって、主が彼にお告げになった言葉をことごとく巻物に書きしるした。そしてエレミヤはバルクに命じて言った、『わたしは主の宮に行くことを妨げられている。それで、あなたが行って、断食の日主の宮で、すべての民が聞いているところで、あなたがわたしの口述にしたがって、巻物に筆記した主の言葉を読みなさい。

またユダの人々がその町々から来て聞いているところで、それを読みなさい。彼らは主の前に祈願をささげ、おのおのその悪い道を離れて帰ることもあろう。主がこの民に対して宣告された怒りと憤りは大きいからである』。こうしてネリヤの子バラクはすべて預言者エレミヤが自分に命じたように、主の宮で、その巻物にかかれた主の言葉を読んだ。」

「バルクは彼らに答えた、『彼がわたしにこのすべての言葉を口述したので、わたしはそれを墨汁で巻物に書いたのです』。つかさたちはバルクに言った、『行って、エレミヤと一緒に身を隠しなさい。人に所在を知られてはなりません』。そこで彼らは巻物を書記エリシャマの部屋に置いて庭に入り、王のもとへ行って、このすべての言葉を王に告げたので、王はその巻物を持ってこさせるためにエホデをつかわした。エホデは書記エリシャマのへやから巻物を取ってきて、それを王と王のかたわらに立っているすべてのつかさたちに読みきかせた。時は〔ユダヤ暦の〕九月であって、王は冬の家に座していた。その前に炉があって火が燃えていた。エホデが三段か四段を読むと、王は小刀をもってそれを切り取り、炉の火に投げ入れ、ついに巻物全部を炉の火で焼きつくした。」

これらの聖句は二つの点を例証している：主は預言者を任命なさって、宮〔教会〕で読まれるように、すなわち民の耳に聞こえるようにとの要請と共に、メッセージを書かせられた。次に、当時の指導者が取った態度について：彼自身とその民を目覚めさせて悔い改めに導き、彼らが赦しと救いを受けるようにと神が送られた証を、この指導者は拒絶した。王は激怒して、エレミヤの証を燃やしてしまったのである。

### 驚くべき背教

主が今日の SDA 教会、すなわち現代のイスラエルに送られた、牧師たちについての驚くべき引用文がある。それは「牧師への証」409, 410 頁に載っている。あまりにも背教が著しいため、このような驚くべき宣告が必要な場合も、時にはあると言わざるを得ない。次のように書かれている：

「聖化されていない牧師たちが、神に対抗して隊を組んでいます。彼らは同じ口で、キリストとこの世の神を賛美しているのです。・・・大いなる光と証拠を持っていた教会によって欺瞞と偽証の罪が大事にされるなら、その教会は、主が送られたメッセージを捨て、最も不合理な主張と偽りの仮説、偽りの理論を受け入れるでしょう。サタンは彼らの愚かさをあざ笑います。なぜなら彼は、何が真理かを知っているからです。

多くの人たちが、サタンの地獄のたいまつによって点火された偽りの預言という、たいまつを手にとって、私たちの講壇に立つことでしょう。もしも疑いや不信が大事にされるなら、忠実な牧師たちは、何でも知っていると思い上がる民によって除かれることでしょう・・・」。

「教会への証」第5巻、77 頁においても、この同じ主題が継続されている：

「神があなた方を、あなた方が愛している欺瞞に陥るままに任せられることはないなどと、誰が知るでしょうか。恩知らずの教会に平和の福音を最後に提示するのは、忠実かつ堅固で真実な説教者たちかもしれないと、誰が知るでしょうか。滅ぼす者たちが、既にサタンの下で訓練され、あとは数名の標準を掲げる人たちが離れていくのを待つばかりかもしれません。



それから彼らの場所にもぐり込み、主が平安を語っておられないときに、偽預言者と共に、『平安、平安』（エレミヤ6：14；8：11）と叫ぶのです。私はめったに泣くことはありませんが、今、私の目は涙で見えなくなっています。そして書きながらも、涙が紙の上に落ちています。やがて、私たちのうちにある預言する声のことごとく止み、民を覚醒させた声が、もはや彼らの肉のまどろみを邪魔することはなくなるかもしれません。

何という光景であろう。これらの予告は、今日成就されつつあるのではないだろうか。もしもエレン・ホワイトが、現在北アメリカ支部によって次々と設立されている新しい SDA 教会の状態を幻で見せられたとしたら、泣かすにはいられなかったはずである。目が見えなくなるほど涙を流したのも当然である。これらの新しい教会の多くは、典型的なセレブレーション〔祝典〕教会である。教会の指導者らはこの事実を否定するかもしれないが、それにもかかわらず、このような背教の目印をことごとく帯びているのである。音楽と叫び声と踊り〔ダンス〕でもって彼らが出す騒音は、きっとイエスご自身をも泣かせていることだろう。

主はご自分の預言者を通して、この悪魔的影響が、「恩恵期間が終了する直前に」我々の真っ只中に持ち込まれるようになることを予告なさった。「セレクトッド・メッセージ」第2巻、36頁からの悲しい予告を考察されたい：

「あらゆる粗野なものが実演されるでしょう。ドラムの音楽や踊りと共に、叫び声が上がるとでしょう。理性的感覚があまりにもかき乱されるため、正しい決断を下すのに感覚に信頼することはできなくなります。そしてこれが、聖霊による感動と呼ばれるのです。

聖霊がそのような方法で、つまりそのような騒々しい状態でご自身を現されることは決してありません。これはサタンの発明であり、すべては純粋かつ真摯な、人を高め清める現代の真理を無効にするための隠ぺい作戦なのです。昨年の一月に私がキャンプ・ミーティングで目撃したような楽器演奏を取り入れるよりは、音楽を全く用いないで神を礼拝する方がましで

す。

現代の真理は、魂を回心させるその働きにおいて、この種の音楽を必要としません。騒々しい状態は感覚にショックを与え、正しく行われれば祝福となったはずのものを腐敗させてしまいます。悪魔的な作用により様々な騒がしい音が混ぜ合わされ、どんちゃん騒ぎを引き起こします。そしてこれが、聖霊の働きと称されるのです」。

現在のセレブレーション教会についてであるが、神への冒瀆となっているのは、そこで演奏される騒がしい音楽だけでなく、礼拝の一部であるといって繰り広げられる無分別な演劇もそうである。このような演劇は、神の言葉によりことごとくとがめられている。神は次のように勧告なさった：

「芝居がかったものは、何一つ取り入れてはいけません」（レビュー・アンド・ヘラルド 1907年2月14日）。

もしもこれらの驚くべき警告が個人的に読まれたり、教会の講壇からまたはキャンプ・ミーティングで読まれたならば、我々はこの恐るべき背教に関与することを免れたかもしれない。我々は自らの怠慢によって神から送られた書き物を読まないだけでなく、イスラエルの王がしたように、事実上、神の言葉を火に投げ入れてはいないだろうか。

このような教会を次々と我々の真っ只中に設立することによって、ここ十数年間セレブレーション教会を増やしてきた挙句、現在、指導者らはこれまで以上の決意をもって、この礼拝形式を促進しようと努めているようである。

The North Pacific Union Gleaner という教会の広報誌の中に（1999年8月号）、ワシントン州バンクーバーにおけるオアシス・クリスチャン・センターの広告が載っていた。そこから引用してみる：「教会からは離れても、神様からは離れていない人たちにとって、まれに見る面白い場所です。いかした子供のプログラム、演劇、スウィング・バンド、その他。通常あなたが行く教会とは違います。是非、見に来てください」。ここで宣伝されているオアシス・クリスチャン・センターとは、セレブレーション教会の一つである。

先にも引用したが、セレクトッド・メッセージによると、上のような形式はサタンの編み出したものである。「悪魔的な作用により様々な騒がしい音が混ぜ合わされ、どんちゃん騒ぎを引き起こします」。我々が教会内でのどんちゃん騒ぎを大目に見て、それを実施しているとは！これが、サタンの下で訓練されてきた「滅ぼす者たち」ではないのだろうか。再び、「牧師への証」109, 110 頁から引用する。もう一度、このぞっとするような預言を読みたい：

「多くの人たちが、サタンの地獄のたいまつによって点火された偽りの預言というたいまつを手を持って、私たちの講壇に立つことでしよう」。

証の書からの文をもう一つだけ引用する。これはバトル・クリークの教会で読まれるようにと書かれたものであるが、今日の我々、特に残りの教会の指導者たちにも当てはまる：

「私たちの教会で責任ある地位にしながら、聖書の真理あるいは御霊の証よりも、数名の思い上がった哲学者の意見に信頼すべきであると考えている人たちがいます」（教会への証、第5巻、79頁）。

### あなたが聞きたいもの

さてここで、思考を刺激する質問を投げかけてみたい。ある人たちにとっては、いまましい質問かもしれない：「サタンの地獄のたいまつによって点火された偽りの預言というたいまつを手を持って、私たちの講壇に立つ」多くの人たちの声と、神の靈感を受けた証を適切に引用しながら、講壇から聖書の真理を説く忠実な牧師たちの声の、どちらを聞きたいとあなたは思われるだろうか？よく考えていただきたい・・・

主は、すべての偽の牧者に災いを宣告なさる！

「主は言われる、『わが牧場の羊を滅ぼし散らす牧者はわざわいである』。それゆえイスラエルの神、主はわが民を養う牧者についてこう言われる、『あなたがたはわたしの群れを散らし、これを追いやって顧みなかった。見よ、わたしはあなたがたの悪しき行いによってあなたがたに報いると、主は言われる・・・』」（エレミヤ 23:1, 2）。

次に、エゼキエル書 34:18, 19 を引用する：

「あなたがたは良き牧場で草を食い、その草の残りを足で踏み、また澄んだ水を飲み、その残りを足で濁すが、これは、あまりのことではないか。わが羊はあなたがたが、足で踏んだものを食い、あなたがたの足で濁したものを、飲まなければならないのか」。

それゆえに、神は偽の牧者〔牧師〕らに災いをもたらされるであろう。このような時が来ているとしたら、神の忠実な牧師たちの義務は何であろう。イザヤは次のように述べている：

「大いに呼ばわって声を惜しむな。あなたの声をラッパのようにあげ、わが民にそのとがを告げ、ヤコブの家にその罪を告げ示せ」（イザヤ 58:1）。

「教会への証」第1巻、321頁において、主の僕は次のように勧告している：

「キリストが二度目においでになる直前の、この恐るべき時代に、神の忠実な伝道者たちは、バプテスマのヨハネよりも更に鋭い証を伝えなければならなくなるでしょう。責任ある、重要な働きが彼らの前途にあります。耳ざわりのよい事を語る者たちを、神はご自分の牧者とはお認めにならないでしょう。恐るべき災いが彼らに臨もうとしています」。

それゆえに、現代イスラエルの会衆と信徒に、「牧師への証」10 頁を引用する：

「天から送られたメッセージを携えてやって来た神の僕について、誰一人不平を言うべきではありません。『彼らははっきり物を言いすぎる。言い方が強すぎる』と言って、これ以上彼らのあら探しをしてはいけません。彼らは強い言い方をするかもしれませんが、それが必要だからではないでしょうか。もしも聞く人たちが神の声またはメッセージに注意を払わないならば、神は彼らの耳に痛みを与えられることでしょう。神の言葉に抵抗する人たちを、神は責められるのです」。

最後の危機に直面するに当たり、我々は「セレクトッド・メッセージ」第3巻、83, 84 頁を読むべきである：

「人々は次から次へとはかりごとをめぐらし、敵は魂をそそのかして真理から離れさせようと努めるでしょうが、主がホワイト姉妹を通して語られ、主が彼女にメッセージを与えられたと信じるすべての人は、最終時代にやって来るであろう多くの惑わしから安全に守られることでしょう」。

エレン・ホワイトが次のような手紙を書かなければならなかったとは、嘆かわしいことである。これは、聖霊が彼女になさせた働きの評判を傷つけようとする人たちに宛てられた手紙である：

「私はあなた方と、私が仕え、私がこよなく愛する大義をお持ちである主イエスに対する義務を果たそうと努力してきました。私があなた方に伝えた証は、実に、主が私に示してくださったものなのです。与えられた光をあなた方が拒んだことを、私は残念に思います。・・・

主が大いなる憐れみのうちに、あなた方が霊的にどのような状態にあるかをお示しになった故に、あなた方は主を裏切っているのでしょうか。主は心の目的をすべてご存知です。彼の御目から隠されているものは、何一つありません。あなた方は私を裏切っているではありません。あなた方は、私に対して敵意を抱いているではありません。あなた方に伝えるようにと私にメッセージを与えられた主に対して、あな

た方は敵意を抱いているのです」(原稿、第5巻、139頁)。

上の手紙が書かれた同年の1903年に、彼女は、証に対する信仰を捨てる人たちについて、このように書いている：

「一つ確かな事があります：サタンの旗の下で立ち上がるこれらのセブンスデー・アドベンチストたちは、最初に、御霊の証に含まれている警告や譴責に対する信仰を捨てるということです」(セレクトッド・メッセージ、第3巻、84頁)。

聖書や証の書をないがしろにするのではなく、むしろ熱心に、「主から何かお言葉があったか？」(エレミヤ 37：17) と尋ねようではないか。次に挙げる主からのお言葉は、エゼキエル 33：11 とエレミヤ 22：29に見出される：

「あなたは彼らに言え、主なる神は言われる、わたしは生きている。わたしは悪人の死を喜ばない。むしろ悪人が、その道を離れて生きるのを喜ぶ。あなたがたは心を翻せ、心を翻してその悪しき道を離れよ。イスラエルの家よ、あなたはどのようにして死んでよかろうか」。

「ああ、地よ、地よ、地よ、主の言葉を聞けよ」。



砂川 満訳

### 前途の危機 ロバート・W・オルソン編

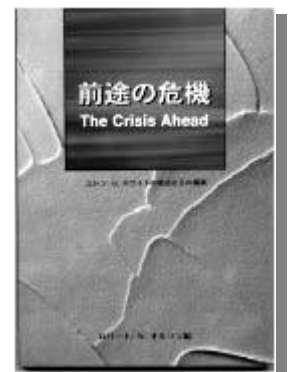
将来のこと、恩恵期間の終わり、悩みの中のための備えの働き、救いにいたる知恵が預言の中にはっきり示されている。

「しかし、多くの人々は全然啓示を受けなかったかのようにこれらの重要な真理を理解していない」(大争闘下 359, 360)。それは「順序どおりに成就する」(国と指導者下 144)。

E. G. ホワイトの著述からの編集。全部質問形式で、答えを証の書から引用。索引付き。

価格：1,800円(送料別)

サイズ：18cm×25cm



# 礼拝と音楽

## 礼拝と音楽

### 今日の礼拝の傾向

サムエル・ピピンは「沈黙すべきか?」という本に次のように引用していた:

「1990年12月17日のニューズウィーク誌(Newsweek)に1990年代は『混ぜ合わせ、組み合わせの時代—靈性のサラダバーの時代、クエーカー主義もカリスマカトリックもニューエイジユダヤも—商標の忠誠はもはや過去の教理で、お客が王だ』と表現していた。」p609

1990年代から宗教界は、何でも混ぜ合わせ、自分の好みに従って組み合わせるようになり、教派の教理に対する忠誠はもう過去のことで、今日のお客が好むような品を提供する宗教になったということであろう。

私が数年前に韓国を訪問した時、自動車から大きな教会のような建物が見えたので、「あれは何ですか」と質問したら、「あらゆる宗教を混ぜ合わせた宗教団体ですよ」という返事であった。シンクロ宗教はどこでも歓迎されている。

礼拝形式も、お客へのエンターテインメント、(もてなし、娯楽)を提供するカフェテリア式礼拝の傾向になってきたのだ。厳粛な悔い改めへの訴え、敬虔な賛美、迫り来る危機の警告も聞こえなくなってきた。

聖書は二種類の礼拝、すなわち真の礼拝と偽りの礼拝があることを記録している。真の礼拝と偽りの礼拝を掛け合わせ、シンクロナイズしたのを黙示録では、「バビロン」と呼んでいる。

### 大争闘と礼拝

いつの時代にも神の忠実な民は、真の礼拝と偽りの礼拝をシンクロナイズ、混ぜ合わせることに抵抗してきたために対決があった。聖書によると、天に於いて始まった大争闘も、終わりの時の戦いも礼拝に関する対決であることを教えている。

天に於いて神のみを礼拝することに謀反を起こしたのは、ルシファーであった。彼は自分もいと高き者ようになろうとした。自分も礼拝の対象になりたいと望んだのである(イザヤ 14:12-14)。人類史最初の殺人事件—アベルがカインによって殺されたことも真の礼拝と偽りの礼拝との対決からであった(創世記 4)。エリヤとバアルの祭司との対決も礼拝に関することであった(1列 18)。バビロンにおけるダニエルと3人の友人も礼拝に関する試練に遭った(ダニエル 3, 6)。エステルとモルデカイの時にも誰を礼拝するかというのが問題であった(エステル 3-8)。荒野におけるキリストの試みの時も誰を礼拝するかというのが問題であった。終わりの時の論点も礼拝に関することであることが分かる(黙 13:14)。

黙示録には最も驚くべき預言が記されている。終わりの時に二つの勢力が世界的な規模で対決する。どちらもすべての人間から最高の礼拝を要求するのである。

● 一方は、創造主が全地の人々に訴える福音である。黙示録 14 章にある:

「わたしは、もうひとりの御使が中空を飛ぶのを見た。彼は地に住む者、すなわち、あらゆる国民、部族、国語、民族に宣べ伝えるために、永遠の福音をたずさえてきて、大声で言った、『神をおそれ、神に栄光を帰せよ。神のさばきの時がきたからである。天と地と海と水の源とを造られたかたを、伏し拝め(礼拝せよ)』」14:6, 7

● 一方はサタンである。

「その頭の 하나가、死ぬほどの傷を受けたが、その致命的な傷もなおってしまった。そこで、全地の人々は驚きおそれて、その獣に従い、また、龍がその権威を獣に与えたので、人々は龍を拝み、さらに、その獣を拝んで言った、『だ



れが、この獣に匹敵し得ようか。だれが、これと戦うことができようか。』 黙示録 13:3, 4

「地に住む者で、世の初めからほふられた小羊のいのちの書に、その名をしるされていない者はみな、この獣を拝むであろう(欽定訳)。」同 13:8

「それから、その獣の像に息を吹き込んで、その獣の像が物を言うことさえできるようにし、また、その獣の像を拝まない(礼拝しない)者をみな殺させた。また、小さき者にも、大いなる者にも、富める者にも、貧しき者にも、自由人にも、奴隷にも、すべての人々に、その右の手あるいは額に刻印を押させ、この刻印のない者はみな、物を買うことも売ることもできないようにした。この刻印は、その獣の名、または、その名の数字のことである。ここに、知恵が必要である。思慮のある者は、獣の数字を解くがよい。その数字とは、人間をさすものである。そして、その数字は 666 である。」同 13:15-17

1. 龍はサタンの象徴である。

2. 獣はローマ法王教である。ローマ法王教は、「サタンの権力が生んだ一大傑作であり...彼の努力の記念碑である。...サタンの代表者である。」大争闘上 44

3. 日曜日は「法王権の子ども」(大争闘上 49)である。

4. 全世界が龍を拝み、獣を拝むという事件は、「その致命的な傷がなおって」からのことである。全世界の人が「小羊のいのちの書に、その名をしるされる」か「しるされない」かは、日曜休業令の事件で決まる。それは永遠の運命を決定する事件である (Letter11,1890,スタディバイブル新 585 参照)。

とするなら、新世界秩序=世界政府が構築されてからのこととなる。その時、法王権の子供「日曜遵守」が全世界に強要されるとき、サタンがあがめられるのであろう。

「日曜遵守を強要する事に関してこれは特にそうである。...最後の時代に、サタンは大いなる力と天の栄光を持つ光の天使として現れ、全地の主であると主張するであろう。彼は安息日

は第七日から週の第一日に変えられたことを宣言するであろう。週の第一日の主として彼は彼に対する忠誠のテストとして偽りの安息日を提示するであろう。その時、黙示録の預言の最終的な成就が起こるであろう。『人々は龍を拝み、さらに、その獣を拝んで...この獣には...42ヶ月のあいだ活動する権威が与えられた。』」19MR282

「欺瞞の一大ドラマの最後を飾る一幕として、サタンはキリストを装うであろう。教会は、救い主の来臨を教会の望みの完成として期待していると長い間公言してきた。今や大欺瞞者は、キリストがおいでになったように見せかける。地上のあちらこちらで、サタンは、黙示録の中でヨハネが述べている神のみ子についての描写に似た、まばゆく輝く威厳ある者として人々の中に現われる(黙示録 1:13-15 参照)。彼をとりまわっている栄光は、これまで人間の目が見たどんなものも及ばない。」

『キリストがこられた、キリストがこられた』という勝利の叫びが、空中に鳴り響く。人々が彼をあがめてその前にひれ伏すと、彼は両手をあげて、キリストが地上におられた時に弟子たちを祝福されたように、彼らに祝福を宣言する。彼の声は柔らかく穏やかで、しかも美しい調べに満ちている。やさしい同情のこもった調子で、彼は、救い主が語られたのと同じ祝福に満ちた天の真理を幾つか述べる。

彼は人々の中の病人をいやし、それから、キリストらしくみせかけながら、安息日を日曜日に変えたことを主張し、すべての人に対して、自分が祝福した日を聖とするようにと命じる。彼は、あくまでも第七日をきよく守り続ける者は、光と真理とをもって彼らに遣わされたわたしの天使たちの言うことを聞かないで、わたしの名を冒瀆している者だと宣言する。これは強力な、ほとんど圧倒的な感わしである。」大争闘下 398,399

サタンは目に見える地上の最大組織を通して礼拝を勝ち取るのである。

「ほかの第三の御使が彼らに続いてきて、大声で言った、『おおよそ、獣とその像とを拝み(礼拝)、額や手に刻印を受ける者は、神の怒りの杯に混ぜものなしに盛られた、神の激しい怒りのぶどう酒を飲み、聖なる御使たちと小羊との前で、火と硫黄とで苦しめられる。その苦しみの煙は世々限りなく立ちのぼり、そして、獣と

その像とを拝む者、また、だれでもその名の刻印を受けている者は、昼も夜も休みが得られない。』黙示録 14:9

これこそまさに「全世界に臨もうとしている試練」である(黙 3:10)。この礼拝に関する危機は、すべての人類、一人漏れなくどちらの側に忠誠を尽くすかを表明しなければならない大争闘なのである。中立の立場はない。「地と地に住む人々」「すべての人々」に法律によって強要される礼拝である。「獣」と「獣の像」を拝ませるのである。礼拝しなければ、経済的ボイコット、果ては死の宣告という恐ろしいものである。聖書と証の書は「全世界」に臨む事件であると明言しているが、ある指導者たちは、日本にはそんな問題は来ないと言っている。人を脅かすような使命は福音ではないと言うのである。証の書は「恐怖すべき威嚇をもった恐るべき警告」(初代 414)と言っているが、これは愛の警告なのである。

もしサリンが東京に撒き散らされることが分かったなら、無頓着な住民に大声で叫んで警告を発しないだろうか。もし津波が水平線のはるかかなたから押し寄せてくるのを知ったならば、のんびり海水浴を楽しんでいる人々に大声で警告しないだろうか。獣とその像を拝ませること、バチカンの世界支配陰謀、日曜休業令によって偽りの礼拝が強要されることが日本も含んで全世界に近い将来やってくるという予言は、もしかしたらはつきりしない、聖書の戯れごとなのだろうか。

神の愛の警告を忠実に発しないなら、どんな結果になるだろう：

「災害の結果に苦しんで、悪人たちの多くは怒りに燃えた。それは恐ろしい苦悶の光景だった。親は子供たちを激しく非難し、子供たちは親を、兄弟は姉妹を、姉妹は兄弟を非難していた。

『あなたがわたしに真理を信じさせまいとしたのだ。そうでなければ、こんな恐ろしい目に会わずにすんだものを』と言って、大声で泣きわめくのが、四方から聞こえた。人々は、激しい憎しみをもって牧師たちに向かい、『あなたは、わたしたちに警告してくれなかった。あな

たは、全世界の人が悔い改めて救われる時が来ると言ったではないか。あなたは、平和だ、平和だと叫んで、恐怖心の起きるたびに、それを静めてしまって、こんなことになるとは言わなかったではないか。わたしたちに警告する人があると、あれは狂信者で、わたしたちを滅ぼす悪い人たちだと、あなたは言ったではないか』と言って、彼らを責めた。しかしわたしは、牧師たちも神の怒りをまぬかれないのを見た。彼らの苦しみは、人々の苦しみよりも十倍も激しかった。』初代 455

三重の使命は「天と地と海と水の源とを造られた方を伏し拝め(礼拝せよ)」と叫ぶ。最後の対決は創造主礼拝と被造物礼拝の対決である。一方は人間の法律、権力による強要である。一方は創造主に対する愛の服従である。このとき全世界のすべての人がどちらを拝む(礼拝する)かの立場を表明しなければならない。中立はない。

## 礼拝とは

英語で礼拝を“worship”という。それは“worth = 価値”と“ship”から成り立っている。“ship シップ”は“friendship フレンドシップ”、“Sportsmanship スポーツマンシップ”“Leadership リーダシップ”と同じ用法である。つまり、人が心に一番価値あるものとするを“wor(th)ship”「礼拝」と言うのである。子供賛美歌で「イエス様が一番」と歌い、「キリストには変えられません、世の何物も」と賛美することは、すばらしい礼拝の告白である。命をかけるほど価値あるものとする、最高の献身を誓うこと、これが礼拝である。金のために命をかけるなら、金が神となり、金を礼拝するのである。食べるために生き、食欲を欲しいままにする人の神は彼らの「腹である」(ピリピ 3:19)。スポーツ、快樂を礼拝する人もいる。

人は礼拝の対象としているものに似るとというのが法則である(ローマ 1:24, 25; 2 コリント 3:18)。今日、終わりの時に何をどのように礼拝するかということは、非常に重要なことである。

## 安息日と礼拝

神の律法は神のご品性の表れ、神の権威である。

キリストの品性を理想としてキリストを礼拝する者は、その律法と調和するようになる。十戒の第5条～10条は、人と人との関係を定めた人間の法律にも含まれている大事な戒めである。しかし、それは礼拝に関することではない。1条から4条までの戒めが礼拝に関することである。それは、誰を礼拝すべきか、なぜ礼拝すべきか、どのように礼拝すべきか、いつ礼拝すべきかが明らかにされている。特に第4条にこれら礼拝に関することのすべてが凝縮されているのである。

## 神もサタンも欲しがる人間の心

人間が創造された目的は、サタンの主張を打ち壊し、神のご品性、律法を擁護するためである。すなわち、人は神の栄光をあらわすために造られたのである(イザヤ 43:7)。

「わたしたちは神の作品です。わたしたちは、『恐るべく、くすし』く造られたとき言葉は述べています。神はわたしたちの心(mind)のためにこの生きた住居を備えてくださいました。それは主ご自身が聖霊の住まわれる所として準備なされた宮です。心は人間全体を支配します。わたしたちの行動は、善であれ悪であれ、みな心に源を持っています。神を礼拝し、わたしたちを天の存在者に結びつけるのは心です。」家庭の教育 386

ここに神とサタンが心を支配したい理由がある。神は人間の心に神の愛の律法を記された。サタンは神の権威を覆すために律法を崩そうと狙った。だから神もサタンも人間の心を欲しがっている。大争闘は心の支配権をめぐる戦いなのである。だれに我々の心の支配を許すかである。

「彼らにわたしのために聖所を造らせなさい。わたしが彼らのうちに住むためである。」出 25:8

「輝く聖なるセラフから人間にいたるまで、すべての被造物が創造主の内住される宮となること、永遠の昔から神の目的であった。罪のために人類は神の宮とならなくなった。人の心は、悪のために暗くなり、けがれたものとなったので、もはや聖なる神の栄光をあらわさなくなった。しかし神のみ子の受肉によって天の神

の目的は達成された。神は人類の中にお住みになり、救いの恵みを通して、人の心はふたたび神の宮となる。」1希望 186

だから、イエスは「神は霊であるから、礼拝をする者も、霊とまこととをもって礼拝すべきである」(ヨハネ 4:24)と言われたのである。どんなに神殿で形式的に礼拝儀式を行っても「薫香は、わたしの忌みきらうものだ。新月、安息日、また会衆を呼び集めること—わたしは不義と聖会とに耐えられない」(イザヤ 1:13)と言われる。「手で造った宮などにはお住みにならない」(使徒 17:24)のである。

「わたしたちの戦い、すなわち、人間の戦わなければならない最も激しい戦いは、自己を神の意志に従わせること、心を愛の主権に屈服させることである。」祝福 176

サタンは、神に屈服することは自由の剥奪だと主張した。しかし、神は創造主に屈服することが人間の真の自由であることを主張された。

「魂がキリストに屈服するときに行われる変化の中に、最高の意味の自由がある。」2希望 255

「神に屈服することは、自分自身を回復すること、すなわち人間の真の栄光と威厳とを回復することである。」2希望 256

人間はどちらの主権に屈服するかを選択をしなければならない。創造主に屈服し、その支配下になければ、サタンの奴隷である。中立はない。

「神に献身しようとしないう魂はみな、別の権力の支配下にある。彼は彼自身のものではない。彼は自由を口にすることもできないが、最もあわれむべき奴隷状態にある。」2希望 255

悪魔は、「自分の時が短いを知って」(黙 12:12)いる。それゆえに自分の主権確立のために必死になって、ありとあらゆる方法を講じている。

「地上のすべてのものの終わりが急速に近づいているこの現代において、サタンはこの世界を陥れようと必死の力をふりしぼっている。彼は人々の心を占領して、救いに欠くことのできない真理から注意をそらそうと、いろいろの計画を案出している。」1患難 236

「獣を拝む」ということは、「龍」すなわちサタンを礼拝することである。なぜなら、サタンがこの巨大な組織、獣に権威を与えたからである。サタンはこのように最後に主権を掌握しようとするのである。

## 音楽と礼拝

音楽と礼拝は切り離せない。天の住民と天使たちは、創造主に感謝と賛美をささげるのに疲れ果てることはない。感謝と賛美が礼拝の要素である。

黙示録は次のように天の礼拝を描写している：

「この四つの生き物には、それぞれ六つの翼があり、その翼のまわりも内側も目で満ちていた。そして、昼も夜も、絶え間なくこう叫びつづけていた、『聖なるかな、聖なるかな、聖なるかな、全能者にして主なる神。昔いまし、今いまし、やがてきたるべき者』」。4:8

「大声で叫んでいた、『ほふられた小羊こそは、力と、富と、知恵と、勢いと、ほまれと、栄光と、さんびとを受けるにふさわしい』」。5:12

黙示録5章には天の住民の礼拝が描写されている。礼拝とは英語で worship と言うことについては説明をした。最高に Worth=価値ありと認める行為を礼拝という。5:2 にキリストこそ「封印をとくのにふさわしい」の「ふさわしい」は英語で Worthy である。5:12 に「さんびとをうけるにふさわしい=worthy」とある。5:13, 14 には「さんびと.....礼拝した worshiped」とある。このように礼拝と賛美(音楽)は切り離せないものなのである。

天で歌われるのは「聖音楽」である。天のクワイヤは「聖なるかな、聖なるかな、聖なるかな」と昔も、今も、永遠に歌いつづける。偽りの礼拝を拒み、勝利し、獣と獣の像を礼拝することが強要される時に真の礼拝に立った全世界から贖われた聖徒たちも、その聖音楽に加わるのである。

「彼らは、神の僕モーセの歌と小羊の歌とを歌って言った、『全能者にして主なる神よ。あなたのみわざは、大いなる、また驚くべきものであります。万民の王よ、あなたの道は正しく、かつ真実であります。

主よ、あなたをおそれず、御名をほめたたえな

い者が、ありましょか。あなただけが聖なるかたであり、あらゆる国民はきて、あなたを伏し拝むでしょう。あなたの正しいさばきが、あられるに至ったからであります』」。黙 15:3, 4

聖なる神を礼拝するという事は、真の意味で人は聖なる者でなければならない。

「わたしは聖なる者であるから、あなたがたは聖なる者でなければならない」レビ記 11:45

「イスラエルの人々の全会衆に言いなさい、『あなたがたの神、主なるわたしは、聖であるから、あなたがたも聖でなければならない。』」レビ記 19:2

では、クリスチャンとは言え、我々は、なお汚れているので、礼拝できないかということそうではない。キリストの功績と執り成しのゆえに我々の賛美と礼拝は受け入れられるのである。しかし、やがてキリストの執り成しが止むとき、最後のあがない、清めで罪から全く清められた者たちは、アダムが罪を犯す前のように仲保者なしに神に賛美と礼拝をささげることができるようにされるのである。

「彼は銀をふきわけて清める者のように座して、レビの子孫を清め、金銀のように彼らを清める。そして彼らは義をもって、ささげ物を主にささげる。その時ユダとエルサレムとのささげ物は、昔の日のように、また先の年のように主に喜ばれる。」マラキ 3:3, 4

この聖句は現代の預言者によって次のように説明されている：

「しかし、人々は、まだ主に会う準備ができていなかった。まだ、彼らのためになされねばならぬ準備の働きがあった。彼らは、まず光を受けて、天にある神の宮に心を向けねばならなかった。そして彼らが、そこで奉仕しておられる彼らの大祭司に、信仰によって従っていくときに、新しい義務が示されるのであった。もう一つの警告と教えの使命が、教会に与えられるのであった。

預言者は語っている。『その来る日には、だれが耐え得よう。そのあられる時には、だれが立ち得よう。彼は金をふきわける者の火のよう



であり、布さらしの灰汁のようである。彼は銀をふきわけて清める者のように座して、レビの子孫を清め、金銀のように彼らを清める。そして彼らは義をもって、ささげ物を主にささげる』（マラキ書 3:2, 3）。

天の聖所におけるキリストのとりなしがやむとき地上に住んでいる人々は、聖なる神の前で、仲保者なしに立たなければならない。彼らの着物は汚れがなく、彼らの品性は、血をそそがれて罪から清まっていなければならない。キリストの恵みと、彼ら自身の熱心な努力とによって、彼らは悪との戦いの勝利者とならなければならない。天で調査審判が行なわれ、悔い改めた罪人の罪が聖所から除かれているその間に、地上の神の民の間では、清めの特別な働き、すなわち罪の除去が行なわれなければならない。この働きは、黙示録 14 章の使命の中にさらに明瞭に示されている。

この働きが成し遂げられると、キリストの弟子たちは、主の再臨を迎える準備ができるのである。『その時ユダとエルサレムとのささげ物（礼拝と賛美）は、昔の日のように、また先の年（キリストの仲保がなかったとき）のように主に喜ばれる』（マラキ書 3:4）。その時、主が再臨されてご自分のもとに受け入れられる教会は、『しみも、しわも、そのたぐいのものがいっさいなく、……栄光の姿の教会』である（エペソ 5:27）。また、その教会は、『しののめのように見え、月のように美しく、太陽のように輝き、恐るべき事、旗を立てた軍勢のような者』である（雅歌 6:10）。」大争闘下 140, 141（大争闘下 397、初代 149 参照）

まもなく、大いなる艱難の前にイエスの再臨を迎えるに先立って、この地上で不協和音なしに天のクワイヤが歌う聖音楽に加われるように、我々も準備されるのである。

感謝と賛美をもって生命の賦与者なる神をあがめることが礼拝であるが、感謝と賛美は我々の生命と健康の秘訣でもある。

「感謝と賛美の精神ほど心身の健康を増進するものは外にない(英文)。」ミニストリー 228

## サタンの音楽戦略

ファッション、食欲、テレビ、雑誌、...は皆強力なサタンの武器だが音楽は「人の心を誘惑する上で最も力のあるものだ」と言われている(青年への使命 289)。

そっと入れられた毒入り音楽はサタンが人々の心を捉える最も魅力的な手段になり得ることについて、「世俗社会における聖音楽」によく説明されているので、ぜひ一読して欲しい。

小学生の男の子がこんな詩を書いた：

「野犬のわな(罠)知っていますか。

おいしそうなる肉のなかに毒を入れてあるのです。

毒だけでなくすぐわかりますね。

真理のなかに少しのまちがい...これがサタンの罠。

賛美歌にロックの曲をつけたのなんてどんなかな？」

「サタンは音楽を青年の心に近づくチャンネルにすることができるなら何ら反対はしない。音楽が良いことのために用いられたら祝福となる。しかし、それはしばしば魂を確保するサタンの最も魅力的な手段の一つになる。...クリスチャンと自称している青年達は、しばしば音楽の選択によって神と彼らの信仰を辱めている。...聖音楽は彼らの性分に合わないのである。」1 T 506

## 音楽は肉体にどのように影響を及ぼすだろうか？

音楽が植物に、動物に、人間に良きにつけ悪きにつけ強力な影響を与えることの証拠はたくさんある。胎児に与える影響も見逃してはならない。

ドロシー・オスターを引用しよう：

「紀元前 500 年に音楽には三つの部分があることについてピタゴラスは言った：①人間の肉体に影響を与えるリズム、②人間の情緒、知性の部分に影響を与えるメロディー、③人間の霊的な性質に影響を与えるハーモニー。この三つの

部分のバランスが大事である。たとえば、リズムのバランスがない場合、霊性よりも肉体の反応が強調される。それはクリスチャン経験にとっていいことだろうか？

音楽はどのように緊張を生み出すだろうか？

①不協和音、②ケイデンスー異常な歌の終止法(終わりのない終わり方)、③シンコペーション(弱拍子を強調する)、単調な繰り返し、駆り立てるようなリズムが使われる。確かにクラシックにも最初の三つのテクニックが使われているが、それは非常にまれである。しかし、それが極端に多く使われると体に緊張を積もらせる。

音楽はどのように体に化学反応を起こさせるだろうか？バスギターの低周波と、駆り立てるようなドラムのビートが脳下垂体に影響を与え、次に体のすべてのホルモンの分泌をコントロールし、セックスアドレナリンーホルモンのバランスを崩すのだ。体の中のホルモンのアンバランス(不安定)が血糖に根本的な変化を与える。それがまた脳に影響を与え、そしてアルコールのように道徳的な機能をおさえることになる。ロックのようなビートの入った音楽はエピネフリンというホルモンの過剰分泌をもたらす、異常な性的刺激を与え、カルシウム不足や、脳の血糖を不足させる。更にロックのリズムからくる振動は脳細胞にいくらかの永久的な機能の変化をもたらす。」 Why popularize Christian rock? P1.

音楽はその演奏のされかたで畏となり得るのにおきづきだろうか。「サタンは演奏のしかたで音楽を畏にしてしまう。」 2 SM38

歌詞がクリスチャン的であれば何でも良いのではない。歌詞は歌のメッセージである以上、聴く人、歌う人に勿論影響するが音楽の最大の危険性は歌詞よりも曲にある。なぜか？歌詞の場合、耳あるいは目から入ってきて脳に伝わり、その意味が認識され、前頭葉が反応するまでのプロセスにある程度時間がかかる。それに比べ曲自体(メロディー、ハーモニー、リズム)は耳から入るといって早く脳の「視床」と呼ばれる部分に敏感にキャッチされ、無意識の反射、反応を起こすからである。

視床は知覚、ことに視覚と聴覚に関与し、知覚はすべてこの部分を経て大脳皮質に達するのであり、特に感情や情緒と密接な関係がある。視床下部には体温調節、水分調節、睡眠、消化などに関する中枢がある」と専門家は言っている。この神経系統を通して音、あるいは音色は直接、脈拍、呼吸、視覚、消化、筋肉の運動と身体臓器の働きに影響するのである。実のところ人体の機能の内、音によって影響されない分野というのはほとんどなく、しかも最も注意しなければならないのは、それらが理性や意識といった高等な脳の支配とは関係なく直接に影響される点である。

それでは感情を高ぶらせたり、リラックスさせたりといった面で主に影響する「リズム」について考えてみよう。リズムとは、周期的な拍子の繰り返しであり、音楽においては統一され調和の取れた用い方をするのが普通である。リズムはそれが筋肉に対し連続的に刺激を与えるので緊張を高めたり、和らげたりする作用がある。

音楽を聴きながら自然と足拍子をとってしまうのは、筋肉に与えられたそのような刺激の現われである。たいてい人は、音楽を聴きながら何らかの形で体のどこかを運動させるものである。種類によっては、その音楽を聴きながら不動の姿勢を保つのに、意識的な努力が必要な場合さえある。

カナダのある音楽教授は語る：

「アクセントの繰り返しによるリズムには筋力を実際に増大させる作用がある。地方によっては土民たちが何時間も、時として一晩中疲れも見せずに踊り狂うことができるのはなぜか不思議に思われたことはないだろうか。もちろん心霊術の力が働いているだろうが、リズムが大きな役割を果たしているのは確かである。原始宗教の儀式や踊りにはいつでも太鼓の絶え間ないリズムがつきものである。」

ある種の音楽が引き起こす反応は手拍子、足拍子ぐらいではすまない場合もある。実際、激しいロック・ミュージックにさらされた植物が萎えて枯死し、穏やかなクラシックを聞かせた場合にはその逆の効果が得られることが報告された。結論として、ある種の音の波長は植物の生育にプラスになり、ある種はマイナスになるという見解が出

された。他にも乳牛の乳の出方について似たような結果が出ている。

別の実験ではモルモットの代わりに10代の男女が使われた。彼らはお互いに初対面であり、こぎれいな個室に二人で座らされている間、自分たちの行動が記録されているのを知らされていなかった。その部屋に静かなバラードやクラシックが流されている間は二人とも普通に話し、友好的な態度を表すものの、常にお互いの間に一定の距離を保っているのが観察された。それがポップス(流行歌)やジャズに切り替えられると、とたんに二人の間隔が狭まりお互いの手に触れたり、肩に手を廻したりし始めた。音楽がまた元に戻されると彼らの態度も以前の控えめなものに戻り、こうして何度か音楽の種類が変えられるたびに二人の行動に変化が現れた。

音楽の効果の利用はビジネスにおいても見られる。レストランのお客はゆったりしたワルツが流されている間はメニューを選ぶのに時間をかけるが、速いテンポのマーチに変えたとカウンターの客の流れは急にスムーズになり、テーブルの客はそそくさと席を立つようになる。支配人の意のままに大衆の行動をコントロールできるのである。

勿論、これらの音楽の作用が、すべてそれ自体悪いというのではない。よい音楽は、必ず緊張感の高まりと開放感をバランスよく与えるものである。しかし、今日の若者たちに受け入れられている音楽はどうだろうか。おそらくこのロック世代を作り上げるのに最も貢献した、かつてのビートルズのメンバーの言葉がそれをよく表しているだろう。「僕たちの音楽は情緒不安定と突飛な行動、反抗、そして革命でさえ引き起こすものだ。」

サタンは彼の計画通りに事を進めている。彼の最終ゴールは、我々を神の示された意志に反逆させることである。しかしそれを成功させるには手順がある。若者たちは「音楽に対して敏感な耳を持っている。そしてサタンはキリストを望まないように心を活発にし、夢中にし、魅惑するには、どの器官を刺激したらよいかを知っている。」アドベン

チスト・ホーム 463

音楽はそれほど「人の心を誘惑する上に最も力のあるもの」(青年への使命 289)なのだ。これはロック全盛時代の到来を預言した一人の女性によって語られたのである。そしてその言葉の一つ一つが、今我々の目前で成就しつつある。

ロック調の、ジャズ調の、ディスコ調の、ラップ調の賛美歌が教会の中に徐々に入り込んでいく。単純な賛美歌は青年達の性分に合わないというのである。主の僕は「単純な歌を歌えるように習いなさい。」そうすることによって心は聖霊による感動を覚えると言っている。(Nov. 11, 1902)。近年、複雑で不規則な旋律とリズムが流行っている。世俗の歌のように激しい身振り、興奮は見られないが、単純な美しい旋律から離れていく傾向に憂慮を感じるのである。

ある人は、今までの賛美歌を古いと考え、現代の世俗社会に流されているビートのきいた、リズムの単純でない曲に賛美歌の歌詞を付けたものを歌いたがる。昔の荘厳で、単純な、美しい賛美歌は単調過ぎると思うのだろう。黙示録にも「新しい歌」とあるではないかという人もいる。しかし、「新しい歌」とは体験の歌という意味である(患下 170)。144,000の歌う「新しい歌」は古い歌なのである。なぜなら、それらは「モーセと小羊の歌」を指しているからである。彼らしか歌うことのできない歌、体験の歌である(大争闘下 440)。

我々は実体の贖罪の日に住んでいる。サタンは主に会う特別な備えをさせないように、人々を真の礼拝からそらそうとしている。世俗と同じ見方で物事を見るように慣らされていくと、獣の刻印を受ける準備となるのである(大争闘下 378)。

「油断することなく、あなたの心を守れ、命の泉は、これから流れ出るからである。」箴言 4:23

### セレブレーション(祝う)礼拝



アメリカ、オーストラリアばかりでなく、世界中の教会で、セレブレーション礼拝形式をとる教会が増えている。今までの形式的な生気のない礼拝から脱皮しようとして、もっと喜び祝う教会にし出席者を増やそうというものである。教理的、預言的説教ではなく、み言葉の説き明かしを短くし、現代的音楽を取り入れて聖日を祝おうというものである。

今日、キリスト諸教会を浸食しているセレブレーション(祝典＝歌えや、祝えや)の、出所はローマであると言われている。全キリスト教会をシンクロナイズした同じ礼拝形式を用いることによって一つにしようとしているのだ。

教理の研究、預言の研究への関心をそらし、拍手をしたり、手を挙げて体をゆすぶり、「イエス、イエス、イエス」「ハレルヤ、ハレルヤ」とむやみに繰り返す歌い方。これはわが教会にも入ってきた。単純な賛美歌には味わいを感じない人が少なくない。エレン・ホワイトは最後の民に単純な福音、単純なライフスタイル、単純な服装、単純な食物、単純な説教等々と「単純さ」を非常に強調している。

セレブレーションが侵入してくると、教会の標準は低くなって、道徳も低下してくるという症状が現われる。先駆者たちが徹夜と断食をして築いた教理、神学は古臭いとけなす。彼らが熱心に宣べ伝え、書き残した本は現代人には合わないから読むな、配るなどと言う。証の書の軽視が目立ってくる。教会に敬虔さが希薄になっていく。十字架、愛と一致の叫びに律法と服従は聞かれなくなる。悔い改めなしの安価な恵みがラオデキヤ教会の子守唄となる。危機に備える警告は威嚇だ、福音ではないと言われる。

「日は延びた、幻はむなしくなった」ということばが教会のことわざとなる。カトリックは変わった、セブンスデー・アドベンチスト教会も変わったのだと言う。他教派はバビロンと呼ぶべきではなく仲間だと言う。日曜休業令は日本には来ない、黙示録13章の獣は、カトリックとは限らない、国によって、各時代によって適用は異なると言う。

今日の世の若者たちは異常なほどのマインドコントロールによって滅びの道に向かっている。その波がわが教会にも押し寄せていることを嘆いている人も多い。

預言の霊に礼拝音楽について、次のような勧告

を見る:

「冷静さと尊厳」Last Day Events, page 159

「明るい、しかし、厳粛なメロディー」Signs of the Times, June 22, 1882.

天の音楽は「完全な調子と甘美さとハーモニー…あわれみと同情と高尚にさせる清らかな喜び」Spiritual Gifts. Volume 1, page 185

「性質を和らげる、人の思いを活気づける、同情心を目覚めさせる、行動の一致を促す、勇気を失わせたり努力を弱めたりするような暗い思いや胸騒ぎなどを払いのける力」教育 198

「魂を献身と神への感謝に目覚めさせる」Fundamentals of Christian Education, pages 97, 98

「まじめな厳粛な印象を与える」Selected Messages Book 3, page 333, paragraph 1

「優雅で、柔らかく、さえた調子」Manuscript Releases Volume Five, page 197

「真のリバイバル賛美歌」クリスチャンの奉仕 236

「神聖であるべき場所、きよらかな静寂が支配すべき所、完全な秩序とつつましさとがなければならぬ所」家庭の教育 590

「キリストに捧げた人間の心は聖なる琴となり、聖音楽をつくり出すであろう」2SM 253

礼拝音楽について、わが教会に延々と論争が続いている。私は三育学院時代、賛美歌を存分に楽しんだ。歌詞が賛美歌であればビートやシンコーションの入ったものも悪いとは思わなかった。しかし、今は悟った。私は音楽の専門家ではない。しかし、少なくとも次のようなことは良い音楽かどうかの判断の助けにならないだろうか:

1. 真理の研究の渴望を高めるだろうか。
2. この賛美歌は、「悪しき思い、悪しき道を捨てて」主のごとくなりたいと高い理想、完全な品性を慕う観念を起こさせるだろうか。
3. この賛美歌は、教理の研究を楽しいものとするだろうか。聖書をつぶさに調べる時間を楽しいものと感じさせるだろうか。
4. 預言の研究に時間をとるだろうか。



5. 聖書研究や、祈りの組で、まじめに真理を求め者たちとの交わりを喜ぶだろうか。賛美歌の練習だけを楽しむ気持ちにさせてはいないだろうか。
6. 敬神の念が教会でのプログラムや服装、部屋や食べ物に表現されるだろうか。
7. 「青年への使命」にあるクリスチャンの標準は、堅苦しいものと思うだろうか。
8. 靈感の証の書を自分で読み研究することを好きにするだろうか。
9. 現代賛美歌音楽がみな悪いとは決して思わないが、「聖音楽は彼らの性分に合わないので」(1 T 506) 現代賛美歌だけを選ぶとする傾向はないだろうか。古い、単純な賛美歌は性分に合わないと感じるだろうか。

エレン・ホワイトの時代にインディアナポリスにおいて、我が教会で起こった異様な音楽演奏が、恩恵期間終了前にまた起こると預言されているので我々はこのことを驚くには及ばない。それが再び起こると言われているのだから、起こるのである。それが聖霊の働きであると呼ばれるということ覚えていなければならぬ。

「去った1月わたしの見せられた混乱させる様々な騒音には聖霊はいっさいかわらない。音楽は、正しく用いられるなら神を賛美し神の栄えとなる。しかし、このような騒々しい音楽を通してサタンは働くのである。彼はそれを蛇の毒牙のように用いるのである。過去にあったこれらのことは将来にもあるであろう。サタンはそのようなやり方で音楽を畏として用いるであろう。」2SM 37, 38

神の霊と力が神の子供たちの上に注がれる前に「別な霊の働き」—偽りバイバルが起きることが預言されている。

「牧師も信徒も、多くの者が、主の再臨に民を備えさせるために神が今宣布させておられるこれらの大真理を、喜んで受け入れる。魂の敵は、この働きを妨害しようとする。そして、こうした運動が起こる前に、偽物を提示することによってそれを妨害しようとする。彼は、自分の欺瞞の力のもとに置くことのできる諸教会

において、神の特別な祝福が注がれているかのように見せかける。大いなる宗教的関心と思われれるものが現われる。多くの人々は、神が彼らのために驚くべきことをしておられると喜ぶが、それは、別の霊の働きなのである。宗教的装いのもとに、サタンは、キリスト教世界に自分の勢力を広げようとする。」大争闘下 190-191

「あなたが描写しているようなことがインディアナで起こっているが、主はわたしに、恩恵期間終了直前に起こることを示された。あらゆる異様なことが実演されるであろう。ドラム、ダンス音楽と共に、叫び声があるだろう。理性の持ち主の感覚で正しい決定をする事ができないほど混乱してしまうであろう。

それが聖霊の働きであると呼ばれるであろう。聖霊は、決してこのような方法、騒々しさではご自身を現されない。これは純潔で、真実で、人を高め、清める現代の真理を効果のないものにするため、自らの巧妙な方法を隠すためサタンが考案したものである。去った1月に楽器を伴ってなされたような礼拝はしない方がいい。そのようなことが、私たちのキャンプ・ミーティングに持ち込まれるであろうということが示された。この時代の真理は魂を悔い改めさせるのに、このようなことは一切必要としない。騒乱は感覚に衝撃を与え、もし正しく使われたら祝福となるはずの音楽を歪めてしまう。サタンの使いの力が浮かれ騒ぎと結ばれる。これが聖霊の働きと呼ばれている。」2SM36

レイズ教授の言葉を引用しよう：

「私は、サタンが神の残りの教会を滅ぼすために用いている最も恐るべき手段について気付いてもらいたいのである。闇の君はいつも私たちの礼拝を求めてきた。そして、彼はこれまで以上に断固とした構えを見せている。あの年を経たへびは益々怒り狂っている。

何故？彼に残された短い時を除いては、勝つ見込みがないことを知っているからである。自分を巧妙に隠すことによって、サタンはようやく『聖霊の働き』という仮装を着けて私たちの教会に侵入してきた。」

「そして信徒たちは敵の企みを見破れないので

ある！どうやら、今まで長年の間世と妥協してきたことによって、霊的防御が弱められたようである。悪魔の偽りの音楽によって少しずつ頭脳が慣らされて催眠術がかけられ、私たちの教会の尊い信徒は悪魔を『すばらしい働きをしている友』として迎えるほど操られてきたのである（5T294 参照）。

このようにして今、音楽と礼拝という名の下にサタンと悪霊たちのありったけの醜さが現れているのを聞いたり感じたりすることができる。混乱してだまされている信徒は、別の霊の働きなのに、それは神による働きだと信じ込まされている（大争闘下 191 参照）。

これは今世紀の最も悪質な偽りである。聖霊はどのようにしてサタンの音楽を通してご自分を表せるだろうか？（2SM36 参照）悪魔は音楽家であることを忘れてはいないだろうか？この教会の初期の墮落をもたらすためにサタンが創作した音楽が今日、徐々に選民の間にまで侵入してきているのである！」ルイズ「世俗社会における聖音楽」28

1972年1月23日発行のカトリック・リーダーという雑誌の8頁で次のように述べている：

「聖霊のペンテコステのバプテスマを信じるのが、すべてだとは言えなくとも、それはほとんどの教派の壁を突き崩すように見える」。

詳しくは、ぜひ「世俗社会における聖音楽」を読んでいただきたい。強くお勧めする。

「バチカン第二公会議のセレブレーションとエキュメニカル（教会一致運動）の思考と行動によって、ローマは祝典的な、社会文化的な、神学的な変化を、我が教会の中にもたらそうとしているのである。バチカン第二公会議文書の標語は、「緩慢な変化」ということであった。つまり、徐々に変化をもたらすことである。『更に礼拝様式の改革は、徐々に持ち込まれ、そしてそれが牧師たちによって意図され、説明されると信者たちはたやすく受け入れるであろう。』

Documents of Vatican II p.

46(1975)、"Freedom's Ring, Jan

1991Vol12, No. 1"に引用。

「神のみ言葉はこのさし迫った危険について警告を与えてきた。これが顧みられないならば、プロテスタントの世界は、ローマ教会の目的が実際に何であったかを知ったときには、もはや手遅れになってそのわなを逃れることができないであろう。ローマ教会は黙々としてその勢力をのぼしつつある。…自分が手を下す時が来たら自分自身の目的を押し進めるために、教会は、ひそかに、そしてあやしまれないように、勢力をのぼしつつある。この教会が何よりも望むものは、有利な立場である。そしてこれはすでに教会に与えられつつある。われわれはローマ教会の真の目的が何であるかをまもなく見、かつ感じるであろう。」大争闘下 341

いよいよその時がきたと思ったときに、ローマは「手当たり次第に、連続的な激しいショック」（この血の鍵、マラカイ・マーチン 291）を与えるために手を下すであろう。

エキュメニカル（教会一致運動）は、大津波となって押し迫っている。我々は決してその波に飲まれることのないようにしよう。

「人々は、隣接する異邦の風習を数多くとり入れ、彼ら自身の特異性と清い性質とを大部分犠牲にした。彼らは、徐々に、敬神の念を失い、神の選民であることを誇りとしなくなった。彼らは、異邦の諸王の外見の壮麗さに心をひかれ、自分たちの簡素なことにあき果てた。」あけぼの下 265, 266

「わたしたちの唯一の安全は、神の特殊な民として立つことです。わたしたちは、この墮落した時代の習慣ややり方に少しでも屈服することをせず、またその退廃した偶像崇拜的な慣習と妥協することなく、道徳的自立心を持って立たねばなりません。」家庭の教育 486

「岩の頂からながめ、丘の上から見たが、これはひとり離れて住む民、もろもろの国民のうちに並ぶものはない。」民数記 23:9



金城重博

「暗黒の勢力を打破する」

## あなたは悪魔への扉を開いていませんか？

「ゆるし」の重要性

悪魔の最大の欺瞞の一つは、ゆるせない心の悲惨な結末である。それはしばしば「うらみを抱く」と言われている。ほとんどの人々はそれに気がついていないが、ゆるせない心 (the spirit of unforgiveness) を生み出す状況が、私たちの人生を捉えるために日々起こっている。これは重大な罪であり、もしきちんと扱われなければ、救いを失うことにもなりかねない。これは死にいたる癌のように、その人を滅ぼしてしまう。

イエスが、マタイ 18 章でゆるしについて何と言われたかを見てみよう。ペテロが「兄弟がわたしに対して罪を犯した場合、幾たびゆるさねばなりませんか。七たびまでですか。」とイエスに聞いた当時、パリサイ人は人をゆるすのは三回までと制限していた。ペテロはそれを七回まで増やそうとした。しかしイエスは、ゆるすことに決してうみ疲れてはならないということを教えられた。「七たびまで」ではなく、彼は「七たびを七十倍するまで」と言われたのである。

イエスはゆるす王とゆるさない僕のたとえ話によってその事を教えられた。たとえの中には、非常に際立ったいくつかのポイントがある：

- 僕をゆるしてあげた王はキリストをあらわす。
- 僕が友人からゆるして欲しいと要求された負債に比べて、王（キリスト）にゆるされた僕の負債は莫大であった。
- 僕の莫大な負債の全てがゆるされた。
- 僕は非常に小さな負債を抱えた彼の友人をゆるすことにおいて、王の模範に従う機会がすぐに与えられた。
- 王の僕が、彼の友人をゆるすことを拒否した時、王によって与えられた恩赦は無効にされた。なぜなら彼がゆるさなかったため、それは取り消されたのである。
- 僕が友人をゆるさないなら、王は彼をゆるすことができなかった。

マタイ 18:34,35 には、「そして主人は立腹して、負債全部を返してしまうまで、彼を獄吏に引きわたした。あなたがためいめいも、もし心から進んで兄弟をゆるさないならば、わたしの天の父もまたあなたがたに対して、そのようになさるであろう。」(Amplified Bible より) と書かれている。

まず最初に、「ゆるし」という言葉の意味を調べてみよう。Vine 聖書辞典には次のように書かれている：「遠くへ送る、追い払うこと、負債をゆるす、完全に取り消す、刑罰の免除。無条件で好意を与えること、解放すること、釈放する、解き放つ。」

ウェブスター辞典には次のような意味が書かれている：「過ちを赦す、恩赦、支払いを免除する。」

マルコ 11:25 の Amplified Bible 訳には、ゆるしの意味についてとてもよい定義がなされている。「また、立って祈るとき、だれかに対して、何か恨み事があるならば、ゆるしてやりなさい。そしてそれをやめなさい、打ちきりなさい(let it drop)、そのままにしなさい(leave it)、去らせなさい(let it go)。そうすれば、天にいますあなたがたの父も、あなたがたのあやまちや欠点をゆるし、それらを気になさらないであろう。

なぜゆるしがこんなにも重要なのかという七つの理由を考えてみよう。

**1. ゆるすことは神に対する服従**—神はゆるすように言うておられる。「互に情深く、あわれみ深い者となり、神がキリストにあってあなたがたをゆるして下さったように、あなたがたも互にゆるし合いなさい。」エペソ 4:32

**2. ゆるしは信仰を働かせる**—マルコ 11:22-26 でイエスは、山を動かすほどの信仰を持つことと関連してゆるしについて語られた。私たちは創世記の中に、何度も神によって誉れを受けたヨセフの揺るぎない信仰を読む。もし彼が、兄弟たちが彼にしてきたことのために、彼らをゆるすことをそれほど進んでしなかったとしたら、彼の信仰は

働かなかったであろう。ゆるせない心は信仰を打ち砕く—これらは共に働くことがない。

**3. 私たちから霊的汚れを取り除く**（ゆるせない心は霊的汚れ）— 箴言 18:14 には、「人の心は病苦をも忍ぶ、しかし心の痛むときは、だれがそれに耐えようか。（口語訳）」「人の霊は病にも耐える力があるが沈みこんだ霊を誰が支えることができよう。（新共同訳）」と書かれている。あなたの霊の上にのしかかる重荷（dirt 中傷、ゆるせない心）を避けよう。私たちの内なる人が血（みことば）によって洗いよめられなければならない。

**4. ゆるしは魂の苦悩を取り除く**—ゆるせない心は、憂鬱、喜びの欠如、心の重苦しさ、不幸せ、何かしっくりいかない気持ちをもたらす。ゆるせない心は魂をむしばむのである。それは霊肉ともにゆっくりと死に向かわせる。ゆるすことはこれら全てを取り除き、平安をもたらす。

**5. ゆるしは私たちと神との「個人的関係」を妨害しているものを取り除く**—ゆるせない心によって、祈りの生活が妨げられる。もし私たちがゆるさないなら、神は私たちをゆるしてくださらないであろう。マタイ 6:14,15 には「もしも、あなたがたが、人々のあやまちをゆるすならば、あなたがたの天の父も、あなたがたをゆるして下さるであろう。もし人をゆるさないならば、あなたがたの父も、あなたがたのあやまちをゆるして下さらないであろう。」と書かれている。私たちの良心の内にゆるせない心を抱きながら、神との関係を持つことをいかにして期待することができようか。これは実に不正直であることになる。

**6. ゆるしは私たちに愛する能力を与える**—人がゆるせない心を持っているとき、彼らは正しく愛することができない。夫と妻が互いに悪い感情を抱いているときはすぐわかる。なぜなら、夜眠る前に抱き合うことに困難をおぼえるからである。ゆるせない心は現在または将来の関係を壊す。なぜなら愛とゆるせない心は正反対だからである。逆にいえば、ゆるすことはイエスの愛が流れる扉を開くことになる。

**7. ゆるしは悪魔を締め出すための扉をボタンと閉める**—ゆるせない心は、サタンに対する扉を大きく開き、憎悪や憤りといった他のことを引き起こすことになる。これら一つ一つは癌のように成長し、その人全体を汚してしまう。

あるクリスチャン作家は次のように言っている：「ほとんどの場所でサタンがクリスチャンの生命を手に入れているのは、ゆるせない心によるのである。」

私たちがゆるすとき、悪魔はやって来て私たちを苦しめることができない。

あなたの生活にゆるせない心があるかどうかを、どのようにして知ることができるだろうか。ゆるせない心、憎悪に満ちた霊は、非難し続ける。誰かがあなたを怒らせるたび、直ちに彼らが自分の感情を害した別の時のことを全て思い出す。これを「過去想起症候群」という。憎悪や憤りを産み育てるゆるせない心は、実に悪魔がクリスチャンに対抗して用いる最大の道具の一つである。

こういうことによって多くの人々が耐えられないほどに傷ついているという事実は否定できない。悪魔はそれに加え、彼らにささやくことによってそれを悪化させたいと思っている。そうすることによって、憎悪と憤りの釘をさらに深く打ち込むようになる。

もちろん、サタンの望みは彼らが神に対して怒りを抱くことである。それは多くの場合憎しみへと変わる。最終的には、その人を絶望の淵に追いやって鬱にする。そしてサタンの次のステップ、最終目的である自殺へとやすやすと導くのである。

あなたの周りを見なさい。ゆるせない心を起こすために、あなた自身あるいはあなたが愛する人の日常生活の出来事でさえも、サタンがいかに巧妙に首尾よく用いているかを見てみよう。

親愛なる皆さん、サタンのこの恐ろしい欺瞞のためにどうか倒れることのないようにしよう。他の人に対して自分はゆるさない権利があると思われる出来事の中で、しばしイエスの生涯に目を向けてみよう。十字架直前に彼がどのような体験をしたかを垣間見る時、私たち自身の状況が非常に異なるものに見えてくる。

イザヤ 50 章には、悪人たちがいかにしてキリストのひげを抜き、いかにして彼を侮辱しつばを吐きかけたかが描写されている。イザヤ 53 章には、彼がどんなに侮られ捨てられ、悲しみの人で病を知っていたかが書かれている。彼はいかにして受けたすべての傷、罪の重荷の苦悩を耐えたのであろうか。

マタイ、マルコ、ルカ、ヨハネによる福音書には、キリストの死の最後の数時間の生々しい描写がある。ゲッセマネにおいて、彼の手の中の杯が震えたのを私たちは見る。彼の人性は、私たちの罪の重荷の下で叫んでいたのである。その重荷はあまりにも強烈だったため、まさに「血のしたたりのよう」に汗が落ちた。

情景はそこで終わっていない。彼は、戻ってきて弟子たちがただ眠っているのを発見する。彼の



「祈りのサポートグループ」は彼を見捨てた。それから、怒った暴徒たちが「刀や棒」を持って、イエスを不正の裁判所へ連れて行くために捕らえようとやってきた音が聞こえてきた。

そこで、ペテロが試みられ、そしてイエスを知らないときえ言って彼を否定したのを私たちは見る。これはイエスにかなりの打撃を与えたにちがいない。

偽りの証人たちが前に出て、イエスを責め訴えた。群集はさらに興奮し、「十字架につけろ、十字架につけろ！」と繰り返し始めた。そして、兵士たちはイエスを捕らえ、全部隊を呼び集めた。彼らは、イエスを鞭打ち、紫の衣を着せた。いばらの冠をその頭にかぶらせ、葦の棒を手に持たせた。そして彼らは、ひざまずいたり、つばを吐きかけたり、あざけったりした。カルバリーへの道で、イエスの力は尽き、十字架の重さのため倒れてしまった。死刑の場所へたどり着くと、彼らは木の十字架に彼の手足を伸ばし、さらに釘付けにした。力の強い人が十字架を持ち上げ、地面に差し込んだ一神の子の肉がさけた。もうひとたび、彼らは頭を振り、あざけり、イエスに自分自身を救って十字架から降りて来いと挑戦した。これらの多くは、イエスが慈愛を持って触れ、癒し、教えた人々であり、その中には悪霊を追い出してもらった人もいた。それでもなお、彼らは彼を拒んだのである。

悪魔と地獄の仲間たちすべてはその場において、イエスをなじっていた。彼らは、彼の耳元で彼を痛めつける言葉をささやいていた。「あなたの友だと言っているこれらの人々、他のだれよりも自分は霊的だと言う人々が、あなたを拒んできた。あなたの教えに耳を傾けてきた弟子たちがあなたを裏切ってきた。すべての人があなたを捨てるだろう。十字架の周りに立っている人々はあなたを憎んでいる。彼らはあなたの死に値する者ではない。彼らは犬だ。なぜ彼らのために死ぬのか？十字架から降りてきて、私たちに拝みなさい。そうすればあなたの欲しいもの全てをあげよう。」というような言葉を。事実、実際彼らがイエスに語った言葉に比べれば、これらはとてもやさしいものであろう。彼らは、人間の基本的感情—拒絶、憎悪、憤り、憎しみ、疑い、ゆるせない心、報復、怒り—を通して、イエスを捕らえようとしていた。彼らはただ、イエスが死ぬ前に彼を征服したかったのである。そうすれば、人類すべてが永遠に失われるのであった。

これらすべてが十分でなかったかのように、イエスは父なる神が背を向けたように感じた。彼の人間的感情で、彼は「わが神、わが神どうしてわ

たしをお見捨てになったのですか」と叫んだ。だれもが彼に敵対しているかのように見えたにもかかわらず、悪魔にとりつかれた悪人たちを見下ろし、こう言った。「父よ、彼らをおゆるしてください。彼らは何をしているのか、わからずにいるのです」。

親愛なる友人のみなさん、あなたがゆるせない心を抱くように試みられるとき、どうかイエスのことを思い出していただきたい。どんなにひどい仕打ちを受けたとしても、私たちはいつもこう言うことができる。「私たちはまだ十字架につけられていない。」そして「父よ、彼らをおゆるしてください。彼らは何をしているのか、わからずにいるのです」。ゆるせない心を通して、サタンにあなたの救いを奪われてはならない。

あなたの感情を害したからという理由で、相手に仕返しをし、冷たくあしらうように、また不親切をあらわすようにと、サタンがやってきてあなたにささやく時、彼にこう言おう—「イエスのみ名によって、サタンよ退け。わたしにとって不愉快な者よ。わたしはもうこれ以上あなたの偽りを受け入れない。今、出て行け。」

もしあなたの人生においてゆるせない心があるのなら、それが家族に対してであれ、知人に対してであれ、ゆるす霊を与えてくださるよう神に求めよう。どうか神が、私たちがゆるす霊をもつことを助けてくださるように。

### あなたにゆるす心を与え、過去の事を水に流す助けとなるステップ：

- 自分の感情を害した相手をゆるすことを選びますと神に告げよう。
- 屈してしまった誘惑—ゆるせない心、憎悪、憤り、怒りなどといった罪を赦してくださるよう神に求めよう。
- その人物あるいは出来事をイエスの目を通して見るができるように、助けを神に求めなさい。イエスは私たちの罪を憎まれるが、しかし私たちのことをどんなに愛してくださっていることであろう。彼は、もし私たちが仲間に対しても同じようにするなら、私たちの全ての罪をゆるして下さると約束しておられる。
- 悪魔が戻って来て、あなたはゆるされていない、あるいは他の人をゆるしていないと信じさせようとする時、また彼があなたに「過去想起症候群」を起こさせようとする

時、そのことはイエスにおゆだねした、それについてはイエスのところへ行って話しなさいと彼に告げ、すばやく悪魔を追い出そう。聖句を声に出して読み、イエスの歌を歌いなさい。そうすればこれらの気持ちが晴れはじめるであろう。気持ちがすっかり晴れ、あなたの心が変わえられるまでこれをやり続けなさい。

- 悪魔が、過去においてあなたが誰かに対して抱いたゆるせない心を、全て思い出し、詳しく話そうとする時、彼にこう告げなさい。「この方法であなたが戻ってくる度に、

私のためにあなたを追い出すだけでなく、私は祈り、誰か他の人の人生においても働いているあなたを縛り上げよう」。私たちはこれを「double whammy ダブルパンチ」と呼んでいる。

- あなたの感情を害した相手に対して、ゆるせない心を示し行動にあらわした時、その人のところへ行きゆるしを求めなさい。ただし、それが相手やその近い人を傷つける場合を除いて。



鍋島幸保訳

### 世界総会の権威とは？

「私は誰であろうと一人の人の判断にゆだねてはならないことを主から指示された。決して一人の人、あるいは少数の人の考えが十分な知恵とされたり、働きをコントロールする力とされてその計画に従うべきだとされてはならない。しかし、世界総会において、すべての伝道地から集まってきた兄弟たちの判断が行使されるとき、孤立した個人的な判断は頑固に固執してはならないし、それは譲らなければならない。働き人は、全員の決議に反して自分の独立した立場を頑固に守ることを徳とみなしてはいけない。

時々、全体の働きを管理を任された少数の者たちが世界総会の名の下に分別のない計画を遂行しようとして神の働きを制限してきた。私はこれらの少数の人たちによって代表される世界総会の声を神の声とみなすことはもはやできない。しかし、だからと言って正式にすべての伝道地から集まった者たちによって構成された世界総会の決議は尊敬すべきでないとは言っていない。全世界から神の教会の代表者たちが世界総会に集まるとき、それには権威があることを定められた。」

(9 T260, 261)

※ わが教会でこの原則が侵されてはいないだろうか。2000年の世界総会では、離婚と再婚に関する問題が論争点になった。しかし、非合法的な方法でリベラルの意見がまかり通って決議されたそう。今や新しい決議が教会指針に取り入れられることになるという。女性に牧師として、長老として按手札を授けることは、インディアナポリス世界総会、ユトレヒト世界総会でも否決された。それにもかかわらず北米では、その決議に反逆してそれが実行されているという。

日本の教団総会では、全国から集まってきた代議員たちの意見が十分に交換されて、決議がなされているだろうか、それとも非合法的な、ある少数の者たちの計画が遂行されているということはないだろうか。もし、そういうことがなされているとするなら、教会の繁栄と発展は見られないであろう。

「我々の牧会の働きに新しい習慣が入り込んできた。他教派に真似ようという願望がある。」ST1899, 12・27

「ある牧師たちは他教派の習慣や働きの方法を模倣してその習慣を取り入れている。」ST1882,4・13

## 2005 年春のセミナー

講師：ルー・ムニラ先生

カトリック教会からセブンスデー・アドベンチスト教会に導かれた元弁護士。現在、信徒自給伝道の働きにたずさわる。30カ国で「各時代の争闘」を今日まで 22,000 冊配布してきた。

### 主なテーマ:

#### 1. ヨベルの年の研究

「それからヨベルの年が始まり、地は休まねばならなかった。」初代文集 95、461

#### 2. 黙示録 8 章 9 章の七つのラッパの研究

従来の適用は聖書的か。

それは恩恵期間終了の前に来る事件か、後に起こる事件か。

それを知ることは重要か。

#### 3. 罪の除去と生ける者のさばきはいつか？

完全な品性はいつ？

#### 4. ダニエル 12 章は過去のことか、未来に適用されるべきか？

#### 5. 十戒を補充する定めとおきての研究

「主よ、あなたの定めのをわたしに教えてください。わたしは終りまでこれを守ります。

…わたしはあなたのおきてを守り、心をつくしてこれに従います。」詩篇 119:33, 34

なぜ、エレン・ホワイトは死ぬ 40 年前に、神の定めは「時が続く限り、それらは全時代の人々に対して拘束力を持つべきものであった。」と言われたのか？

ユダヤ制度から福音と終末事件に光を投げかける。

時： 4 月 23 日(土曜日、安息日)～4 月 30 日(土曜日、安息日)

場所：今帰仁ライフスタイル・センター

電話：0980-56-2783 Fax：0980-56-2881

費用：宿泊費、食費－25,000 円 資料代は別

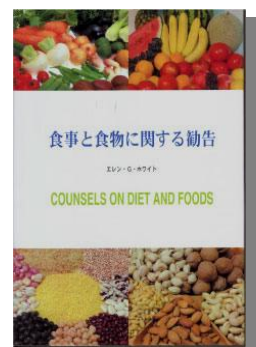
### ● E.G.ホワイト著 「食事と食物に関する勧告」

近年になって、やっと病気の原因、健康の秘訣は生活様式だといわれるようになったが、エレン・G・ホワイトが一世以上も前にそのことを強調したことに権威者たちも驚いているのである。

彼女の「食事と食物に関する勧告」はビタミンという言葉さえないときにかかれたものであるが、この書を読む人々に大いに健康と幸福をもたらす。

価格：2900 円(送料別)

サイズ：15cm×21cm



# 今帰仁ライフスタイル・センター

講堂  
食堂  
宿泊施設



レストラン ハーブ

レストラン・ハーブ  
0980-56-5681



## クレンジング プログラム 沖縄

米国クレンジング・ウェイのドクターイム来沖

体質改善にクレンジングしてみませんか。

5月22日(日)~29日(日)

- 新鮮な空気、日光、節制、休息、運動、正しい食事、水の使用、神への信頼の研究
- 生ジュース療法、薬草茶、蒸留水によるクレンジング
- 健康カウンセリング
- 美しい環境で保養
- 費用：7万円
- 定員：15名
- 場所：今帰仁ライフスタイル・センター
- 電話：0980-56-2783 fax: 0980-56-2881

発行：サンライズ・ミニストリー

〒905-0428 沖縄県国頭郡今帰仁村今泊 1471

Tel: 0980-56-2783 Fax: 0980-56-2881 Email: [sanchor@cosmos.ne.jp](mailto:sanchor@cosmos.ne.jp)

郵便振込み番号：02080-0-12121 <http://www.cosmos.ne.jp/~sanchor/>

